

豊田市交通安全学習センターの 取り組みについて

～市民から盛り上がる交通安全～

豊田市交通安全学習センター
交通心理士 伊藤 嘉康

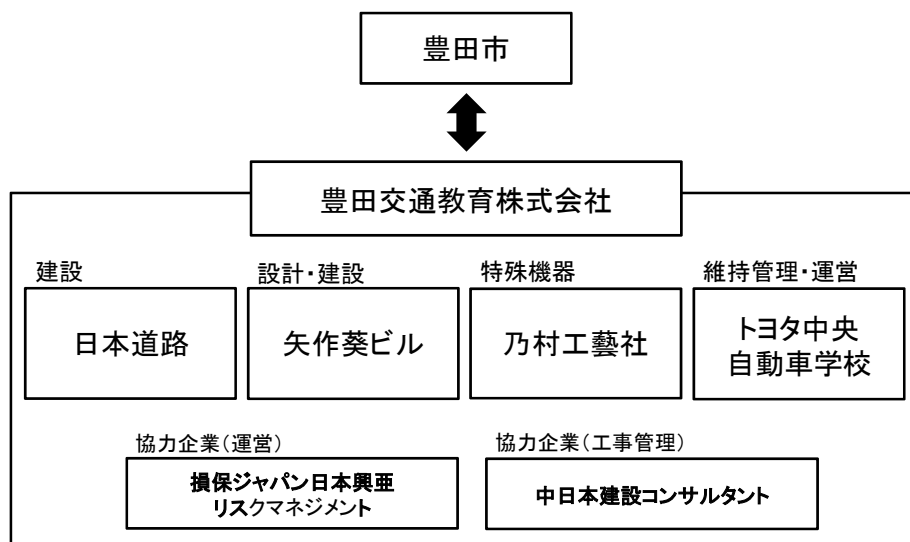
Toyota City Traffic Safety Learning Center



「交通安全のまち豊田」の実現に向けて
平成22年4月・豊田市池田町にオープン！



Toyota City Traffic Safety Learning Center



契約期間:平成22年4月～平成37年3月(15年間)

Toyota City Traffic Safety Learning Center



グランドコンセプト

「与えられる教育から自発的な学習へと促し、思いやり譲り合いの
優しさで、人と車の折り合い(調和)の心・技・体を学ぶ」

- ① 体系的に交通安全を学ぶ
幼児から高齢者までが交通安全を体系的に学べる施設
- ② 体験的に交通安全を学ぶ
交通事故の原因となる危険な状況を体験的に学べる施設
- ③ 楽しみながら交通安全を学ぶ
親子や家族で来場し、交通安全を楽しみながら学べる施設

Toyota City Traffic Safety Learning Center



平成25年度各年代の重点項目と実績

対象	重点項目	実績 (上段: 団体講習・下段: 出張講習)
園児	飛び出しの危険性・ 道路の安全な歩き方等	136園／ 7,811人 33園／ 4,905人
小学1年生	飛び出しの危険性・ 登下校時の注意点等	80校／ 4,013人 7校／ 1,096人
小学4年生	自転車の交通ルールの理解・ 模擬市街地走行等	83校／ 4,108人
中学1年生	自転車の法的位置付け・ 自転車の安全利用等	1校／ 30人 26校／ 4,218人
高校1年生	交通社会人としての自覚と責任等	15校／ 7,629人
高齢者	夜間の視認性・身体機能の確認等	102団体／ 2,248人 41団体／ 3,977人
その他	受講者層や要望に応じて	100団体／ 2,991人 29団体／ 2,582人
合計		502団体／21,201人 151団体／24,407人

Toyota City Traffic Safety Learning Center



団体講習(小学4年生)



Toyota City Traffic Safety Learning Center



オリエンテーション



Toyota City Traffic Safety Learning Center



シアター



Toyota City Traffic Safety Learning Center



巻き込み実験



Toyota City Traffic Safety Learning Center



練習走行



Toyota City Traffic Safety Learning Center



効果測定



Toyota City Traffic Safety Learning Center



平成25年度 交通安全啓発業務の内容と実績

実施業務	①対象者と②主な内容	実績
交通安全委員研修会	①各自治区より選出された交通安全委員 ②最新の交通関係情報の提供と交通安全指導のポイント等を指導	5回／255人
高齢者交通安全アドバイザー研修会	①老人クラブより選出された交通安全アドバイザー ②高齢者特有の交通事故の特徴及び交通安全指導のポイント等を指導	5回／197人
高齢者交通事故現場移動講習会	①老人クラブの交通安全アドバイザーほか希望者 ②警察署と連携し交通死亡事故現場にて事故防止対策等を検討	10回／107人
外国人に対する交通安全講習会	①市内の在日外国人 ②日常生活に最低限必要な日本の交通ルールやマナーについて指導	3回／ 81人
有識者による講習	①交通安全に関わる各団体の代表者等 ②有識者による講演会と当施設の特設機器を使用した講習	1回／100人

Toyota City Traffic Safety Learning Center



交通安全委員会研修会



Toyota City Traffic Safety Learning Center



高齢者交通安全アドバイザー研修会



Toyota City Traffic Safety Learning Center



高齢者交通事故現場移動講習会



Toyota City Traffic Safety Learning Center



交通安全講話



Toyota City Traffic Safety Learning Center



自転車安全講習会(小学6年生)



Toyota City Traffic Safety Learning Center



交通事故発生状況の推移

年	発件数(件)	負傷者数(人)	死者数(人)	備考
S45	718,080	981,096	16,765	・交通戦争,交通安全対策基本法制定 ・ボンエルフ ^{注1)} の試み始まる(オランダ,デルフト)
S55	476,677	598,719	8,760	・国内初のコミュニティ道路 ^{注2)} を施工 (大阪市阿倍野区長池町)
H2	643,097	790,295	11,227	・高齢者交通安全教育指導指針が定まる ・軽自動車の規格が550ccから660ccに拡大
H16	952,709	1183,616	7,425	・死者数は昭和45年の半数以下 ・負傷者数は過去最多
H25	629,021	781,494	4,373	・死者数は昭和45年の3割以下

注1)ボンエルフ:歩行者と自動車共存できる歩車融合型の道路のこと。語源はオランダ語で「生活の庭」の意。

注2)コミュニティ道路:自動車の通行を主たる目的とはしない道路のこと。

死者数が減少している要因

- ①シートベルト着用率の向上
- ②事故直前の車両速度の低下
- ③悪質・危険性の高い事故の減少
- ④歩行者の法令順守

死者数の減少幅が縮小している背景

- ①高齢者人口の増加
- ②シートベルト,エアバック等の装着率の頭打ち
- ③飲酒運転による交通事故減少幅の縮小

Toyota City Traffic Safety Learning Center



ボンエルフ(オランダ,デルフト)



Toyota City Traffic Safety Learning Center



コミュニティ道路(大阪市阿倍野区長池町)



Toyota City Traffic Safety Learning Center



第9次交通安全基本計画(平成23年度～27年度)

区分	目標値	死者数(人)	死傷者数(人)
交通安全基本計画(国)		3,000 ^{注1)}	700,000
愛知県交通安全計画		160	55,000
豊田市交通安全計画		—	2,200

注1) 3,000人に平成22年中の24時間死者数と30日以内死者数の比率を乗ずると概ね3,500人
 【24時間死者数4,922人,30日死者数884人,30日以内死者数5,806人(比率1.18)】
 参考:平成25年の24時間死者数4,347人,30日死者数779人,30日以内死者数5,152(比率1.18)

豊田市

交通事故のない社会を実現することが究極の目標であるが,本計画においては,平成27年までに交通事故による死傷者数を基準年とする平成22年の2,629人から,2,200人以下(△16.3%)とすることを目標とする。

また,長期的には平成42年までに交通事故による死傷者数を平成22年実数値の半減を目指すとともに,死者数を限りなくゼロに近づけることを目標とする。

区分	年	22年	23年	24年	25年	26年(5月末)
死傷者数(人)		2,638	2,551	2,779	2,659	931
死者数(人)		19	23	10	17	3

Toyota City Traffic Safety Learning Center



世界の交通事故死、年間124万人 (うち歩行者,年間27万人超)

世界保健機関(WHO)は,世界の交通事故による死者が2010年に124万人だったとの調査結果を発表した。

WHOは必要な対策を取らなければ,20年には死者が年間190万人に達する恐れがあると警告している。

また,交通事故による全死者数の22%に当たる27万人以上の歩行者が世界で毎年死亡していると発表,

車両の交通が優先され長年対策が怠られてきたと批判した。

WHOは歩行者の事故死低減に向け,

・ ・ が

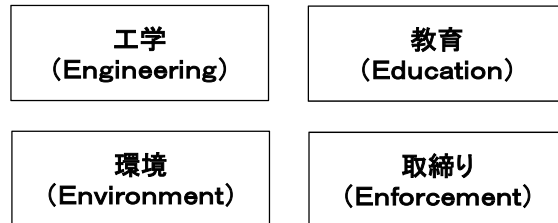
必要だと訴えている。

出典:日本経済新聞・時事通信社

Toyota City Traffic Safety Learning Center



交通事故防止対策



全ての交通参加者が安全で安心して
道路を利用できるまち豊田を実現するために
私たちにできることは？

Toyota City Traffic Safety Learning Center



Toyota City Traffic Safety Learning Center



幼児期・児童期の安全教育について

(親だからこそできること)

幼児、低学年の頃は褒めて教え、高学年になったらなぜ危険なのか具体的に教える。子どもの成長に応じ、適切な時期に適切な安全教育をすることが何より重要で、そのタイミングをはかれるのは親だけである。大切なのは親子の会話。親は子どもにとって最も身近な存在であるからこそ、会話を通して子どもの成長を確認し、タイミングよく安全教育を実施して欲しい。

子育てしぐさ

三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で末決まる。

3歳までに、心の大切さを理解させる。

6歳までに、公私の区別を躰ける。

9歳までに、挨拶、言葉、世辞を覚えさせる。

12歳までに、正しい文章が書けるようにさせる。

15歳までに、物事の道理が理解できるようにさせる。

心、躰、言葉、文、理(ことわり)の順番が大切、基礎となるのは、心。

Toyota City Traffic Safety Learning Center



成人期の安全教育について

運転者への教育技法(3A訓練・役割演技法・小集団活動など)について

3A訓練

ムンシュ(Munsch, G)^{注1)}の考案したパートナー学^{注2)}での中心的な訓練方法である。3つのAとは、歩行者の「年齢」(Alter)、「意図」(Absicht)、「注意」(Aufmerksamkeit)を指している。

通常、「歩行者に注意せよ!」とドライバーにいうときに、歩行者がいるかどうか、すなわち存在の確認で事足りりとしているが、それだけでは本当に歩行者の行動を予測し、事故の危険を減らすには不十分である。

歩行者の年齢を推定し、何をしようとしているかを予測し、それから、歩行者の注意の状態(ぼーっとしている、向こう側を向いている、横の人との話に夢中になっている)を判断している。

出典: 蓮花「交通危険学」

注1) Munsch, G: バイエルン州技術管理協会、心理・医学研究所所長
1960年代から70年代に活躍した交通心理学者で交通危険学の創始者

注2) パートナー学: 交通状況での他の交通参加者(歩行者や自転車、先行車など)を、道路上でのパートナーとして理解する。参加形態別の特徴を把握するとともに、その行動を予測し相手への配慮や相手の身になった適切な行動のしかたを学ぶ。

Toyota City Traffic Safety Learning Center



例題

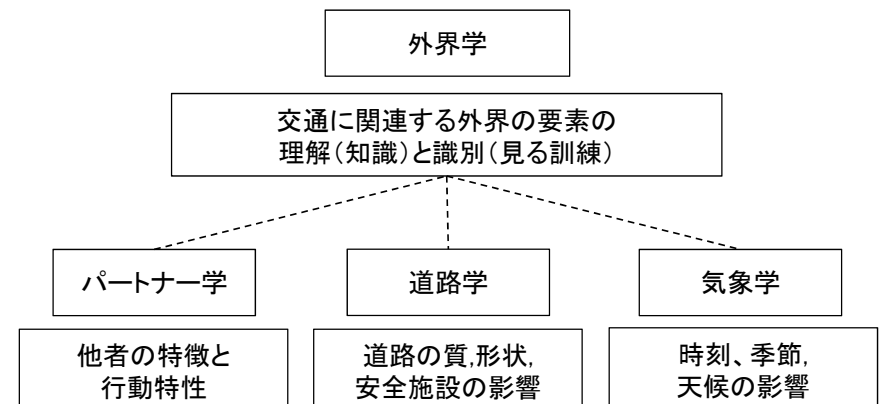


Toyota City Traffic Safety Learning Center



参考

危険学の構成



出典: ムンシュ「危険学」

Toyota City Traffic Safety Learning Center



今後の課題

- ① 家庭における交通安全教育の浸透
- ② 高齢者を中心とする歩行中や自転車乗車中の交通事故削減に向けた、効果的な講習カリキュラムの作成、及び効果の検証
- ③ 関係団体等も交えた交通事故削減に向けた取り組み、及び当施設の活用方法の模索



ご清聴ありがとうございました.

